

2024.12.14

株式会社マイナビ

全社のBacklog ワークスペース統合について

デジタルテクノロジー戦略本部

デジタルプラットフォーム統括部 コーポレートIT統括部

ビジネスソリューション部 ビジネスソリューション2課

並木 勇二

株式会社マイナビ

会社概要

本社所在地：東京都千代田区

設立：1973年8月15日

従業員数：8,300名

グループ全体：約14,300名

事業所：全国53拠点



サービス

キャリアデザイン

[マイナビ2025](#) [マイナビ新卒紹介](#) [マイナビ進学](#) [マイナビ研修サービス](#)

HR

[マイナビ転職](#) [マイナビAGENT](#) [マイナビバイト](#) [マイナビミドルシニア](#)

ヘルスケア&ウェルネス

[マイナビ看護師](#) [マイナビ薬剤師](#) [マイナビ健康経営](#) [マイナビ福祉・介護のシゴト](#)

人材派遣BPO

[マイナビスタッフ](#) [マイナビキャリアেশョン](#) [マイナビクリエイター](#)

メディア&サービス

[マイナビニュース](#) [マイナビウーマン](#) [マイナビティーンズ](#) [マイナビ学生の窓口](#)

など

デジタルテクノロジー戦略本部

全社のデジタル戦略の一環として2022年に誕生
各領域のエンジニア/Webマーケター/デザイナーが集まるIT/WEB組織
従業員約600名

IT企画推進 領域

- ・教育
- ・組織活性
- ・EX推進

コーポレートIT 領域

- ・ネットワーク
- ・PC環境
- ・社内基盤
- ・全社利用アプリケーション
- ・セキュリティ
- ・個人情報

オペレーション デザイン 領域

- ・ERP
- ・CRM/SFA
- ・RPAを含めた業務改革

データ ソリューション 領域

- ・データ利活用
- ・データ基盤
- ・データガバナンス

ビジネス イノベーション 領域

- ・内製開発（アプリ/インフラ）
- ・サービスサイト/周辺システム管理

プロダクト マネジメント 領域

- ・新規プロダクトのPdM

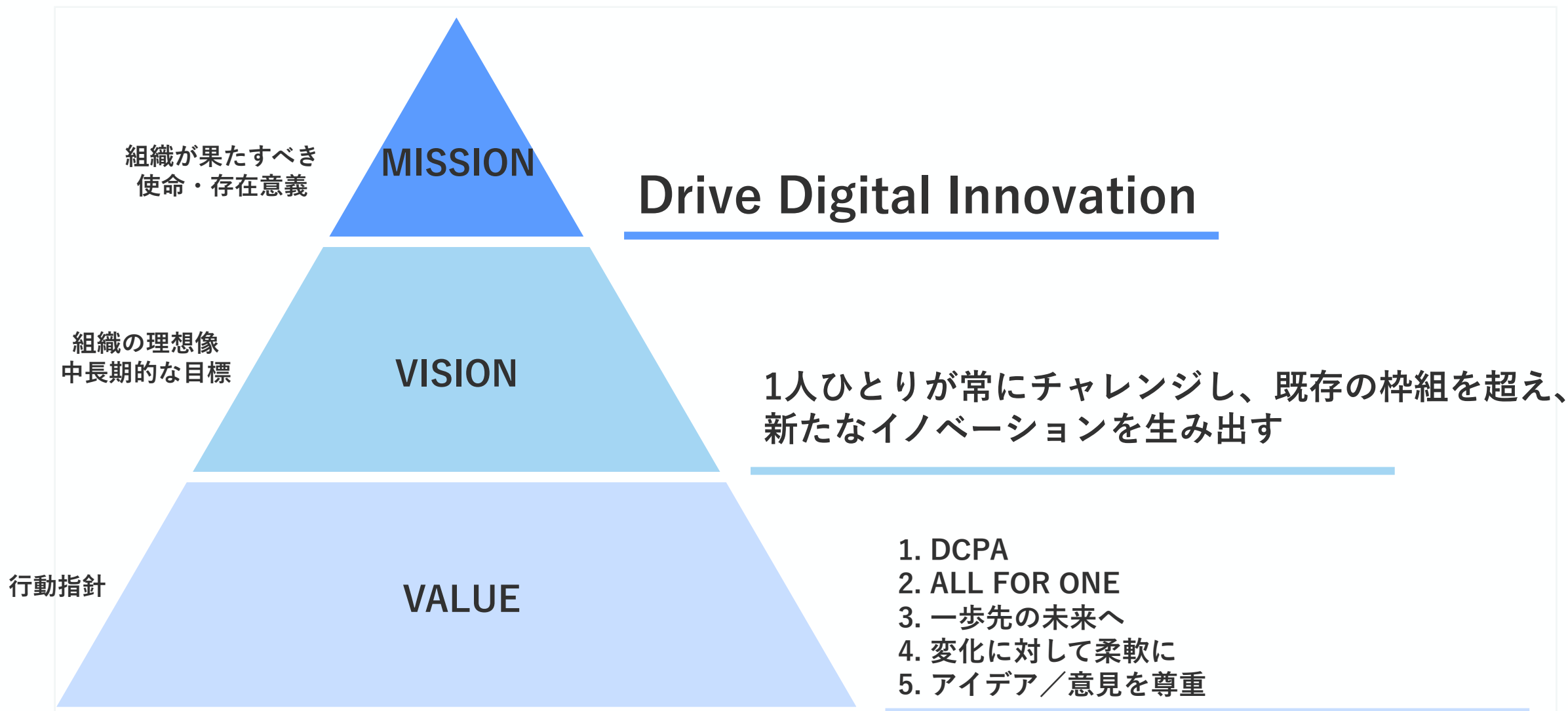
Web マーケティング 領域

- ・サイト運営
- ・コンテンツプランニング
- ・プロモーション
- ・クリエイティブ制作

AI 領域

- ・生成AI構築
- ・AI活用による生産性改善

デジタルテクノロジー戦略本部のミッション・ビジョン・バリュー



**マイナビでは
エンジニア採用を強化しています！**

各種コンテンツ

01

エンジニア採用HP

<https://www.mynavi.jp/saiyou/it/>



一緒に働くことに
興味がある方はぜひ！

02

エンジニアブログ

<https://engineerblog.mynavi.jp/>

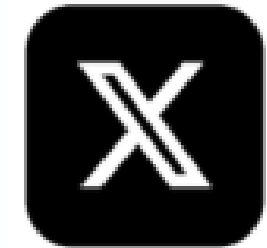


技術ブログ記事を中心に
いろいろな記事があります！

03

Mynavi Tech info

https://x.com/mynavi_tech



Xのフォローもぜひ！

自己紹介



並木 勇二

デジタルプラットフォーム統括部 コーポレートIT統括部
ビジネスソリューション部 ビジネスソリューション2課

【経歴】

- 2020年4月 株式会社マイナビに新卒入社
- 2021年1月から社内のBacklog管理者を担当（歴としては4年）

【Backlog】

- お気に入り機能は『あなた宛てのお知らせ』をTeamsで受信
- 今年の春にJBUGに初参加し、3回目で初登壇です…！

【モットー】

- 仕事を通じて、なるべく多くの人に幸せを届けていきたい

【左上の写真】

- フィリピンのプラグ山（Youtubeに動画があります！）

[フィリピン登山旅PHプラグ山の雲海&日出が絶景過ぎた【2,922m海外登山】 - YouTube](#)

アジェンダ

01 | スペース統合の背景

02 | 実施内容

03 | 結果

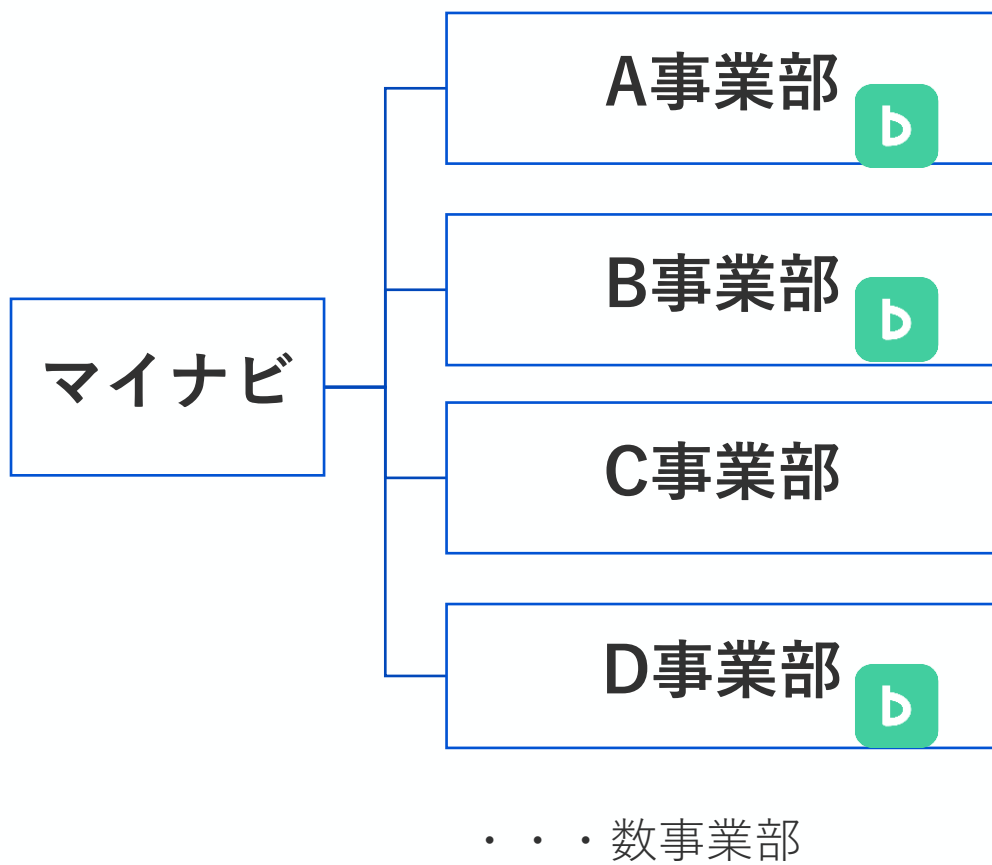
04 | 今後の展望

01

スペース統合の背景



各事業部でBacklogが導入され、社内に複数のスペースが存在



昔

- 縦割りの意識が強かった過去
- 事業部個別でシステムを導入



課題

Backlogのスペースが
社内に複数存在している

スペース統合に着手したきっかけ

① 社内のデジタル改革

✓ ITツールの整備が進む

サイロ解消を目指す動き

✓ 全社推奨スペースの本格的に展開

プランを最上位のプラチナに

② 他スペース利用者からの声

「スペースの契約手続きが負担になっている」

「複数のスペースを行き来するのが面倒」

可能な範囲で、
全社推奨のスペースに統合していこう

社内の状況

利用規模・プランはさまざま

社内でスペースは**9個** (推奨スペースは除く)

項目	説明
プロジェクト数	30~100
ユーザー数	80~600名
契約期間	月払いや年払いなど様々
契約プラン	スタンダードクラシックやプレミアムなど様々



スペース管理者からの声

アカウント管理が
煩雑になってしまっているかも・・・

できることなら
システム部門に管理を任せたい・・・



スペース集約前の状況・理想

As Is

- ✓ 社内にスペースが点在
- ✓ 各スペース毎に、
管理コスト + 費用が発生
- ✓ 管理が煩雑になっている

To Be

- ✓ 1つのスペースに集約し、
コストを最適化
- ✓ そのうえで、
個別スペースが存在するのもOK

02

实施内容



前提：公式のBacklog移行ツールを使用しました



backlog
by nuleab

Backlog 移行ツール ダウンロード

2023年03月07日
Version 1.6.0

機能の改善

- フィルタリングオプションにて、"updatedSince"、"startDateUntil" が条件としてサポートするよう改善しました。

不具合の修正

- 単位付き数値形式のカスタム属性にて、マイナス値を含む値が登録されている場合に移行が失敗する問題を修正しました。
- 数値形式のカスタム属性にて、一部の値が正しく移行できない問題を修正しました。
- 完了理由を未設定に戻した課題が正しく移行できない問題を修正しました。

ダウンロード

- [backlog-migration-1.6.0.jar](#)
- [マニュアル](#)
- [ライセンス](#)
- [オープンソースライセンスの一覧\(csvファイル形式\)](#)

[Backlog 移行ツール ダウンロード](#)

Backlogにプロジェクトを移行する機能はありません。

ただし、「Backlog移行ツール」を使用することで、プロジェクトの課題（コメント・添付ファイルを含む）とWikiに限り移行ができます。（[プロジェクトのデータを別のスペースに移行できますか？ - Backlog ヘルプセンター](#)）

大まかな流れ

STEP1 : 全体準備

STEP2 : 各スペースの移行

大まかな流れ

STEP1 : 全体準備

STEP2 : 各スペースの移行

スペースの調査特定

個別契約
スペースの特定

スペース管理者の
特定

契約状況
利用状況の把握

※ヌーラボ社に直接確認は×のため、
社内の購買情報を中心に調査

▼情報の抜け漏れが無いよう
フォームを活用

Backlogの利用状況について

概要: Backlog管理チームで、社内で個別契約しているBacklogプランを
共有Backlog (Backlog管理チームが管理するBacklog) へ集約する計画しております。
※移行可能なプランについては、5/31期に移行サポートを実施する予定です。

【目的】
業務の効率化を目的に、会社コスト削減を図るため、(一)集約システム(バックログ)へ集約するための
※集約後は各部署での利用状況がなくなります。(一)集約システム(バックログ)へ集約するための
ご使用中のBacklogの利用状況を把握するため、下記アンケートに回答いただきます(※)。
(移行可否や移行時期の判断の参考にさせていただきます。)

不明点がございましたらBacklog管理チームまでご連絡ください。

* 必須

1
対象スペースのドメインを教えてください。*

例: 共有Backlogの場合
www.backlog.com

回答を入力してください

2
対象スペースの利用プランと契約期間を教えてください。*

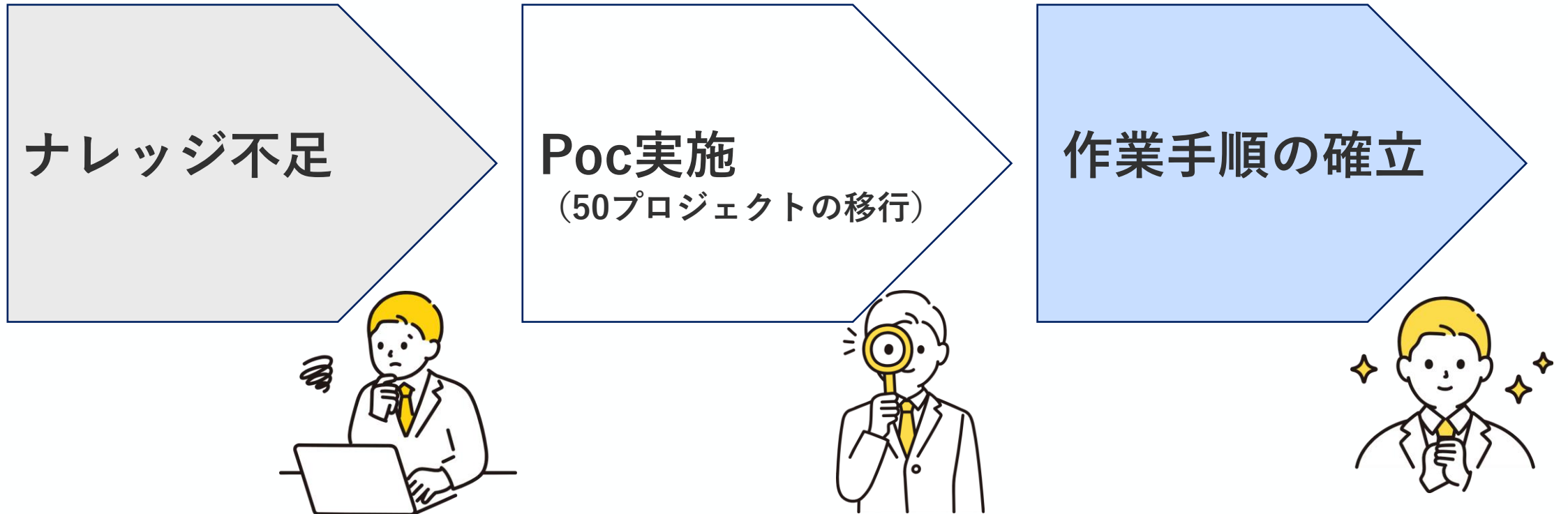
下記から確認いただけます。
<https://support.backlog.com/ja/articles/2000264224>

例: Backlog プラン 2023/08/01 - 2024/06/30

Backlog プラン
プラン管理
2023/08/01 - 2024/06/30

移行手順を確立するためPoc実施

当時、「プロジェクト単位」の移行事例はあるが、
「スペース単位」の移行事例がなかった・・・



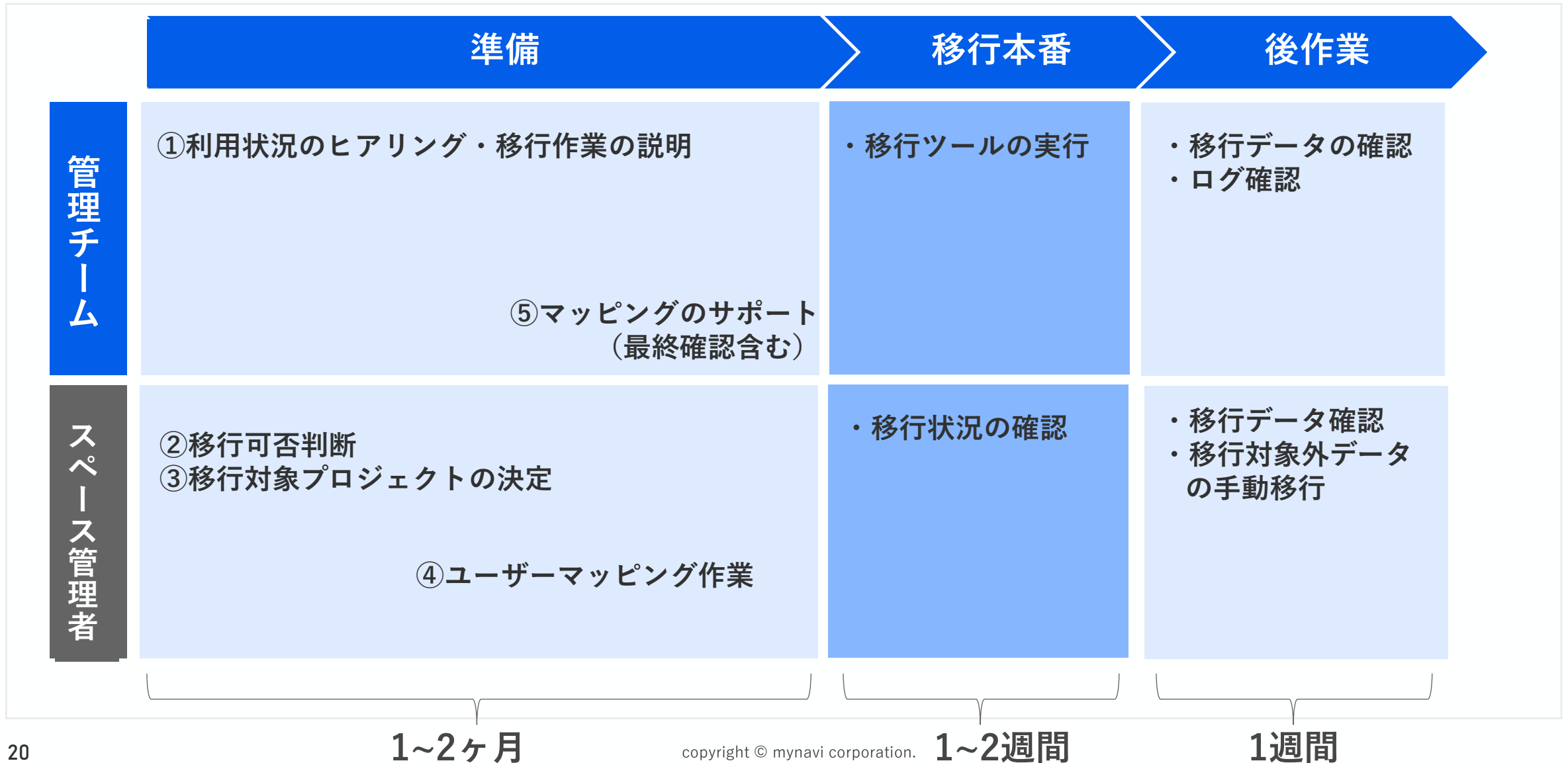
大まかな流れ

STEP1 : 全体準備

STEP2 : 各スペースの移行

※各スペース毎に実施

スペース移行作業の流れ



**Q.ユーザーマッピングについて、
どのように紐づけを行うか
想像できますでしょうか？**

ユーザーマッピング作業について

・仕様

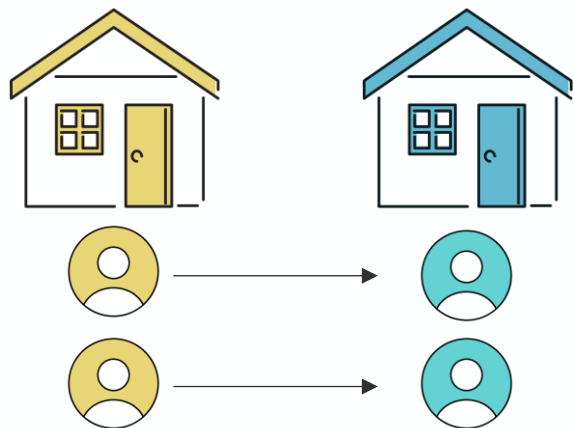
移行元のユーザーを
移行先のユーザーに
必ず紐づける必要がある

・課題

プロジェクトから
離脱しているユーザー
も対象である

・解決策

ユーザーに応じて
紐づける対象を変える



社内ユーザー？社外ユーザー？
現職？・・・など

ユーザーマッピングの判断基準を作りました。

ケース①

アカウントが既にある場合

- ◆ 既存アカウント に紐づけ *
- ◆ 既に離脱している場合は、ダミーのアカウント を発行して紐づけ *3

ケース②

アカウントが無い場合

- ◆ 本人のアカウント を新規発行して紐づけ *1,2
- ◆ 既に離脱している場合は、ダミーのアカウント を発行して紐づけ *3

*1 招待後一定期間内に有効化しないと、抹消されるので注意

*2 *3 移行作業完了次第、棚卸ししましょう。

Tips : つまづいたこと / 助けられたこと

- Backlog APIのレート制限
(1分間に受付可能な数が制限)

課題数2,000、更新履歴数20,000で、
約2~4時間の移行時間

- 移行処理時に通知メールが飛ぶ
(ユーザーの個人設定で回避可能)

個人設定で通知設定がオンだと、
大量のメール通知が飛ぶので注意

- Backlogサポートチームの存在

エラーが発生した際に迅速なサポート
本当にありがとうございました。

- 移行コマンドオプション
「--fitIssueKey」があって良かった

プロジェクトキーのズレを防ぎ、
リンク切れを起こさずに移行ができた
▼イメージ

これはどうやら[BLG-104](#)と同じ現象のよう
です。 [BLG-87](#)も合わせて参照してください。

大まかな流れ（まとめ）

STEP1：全体準備

- ✓ スペースの調査・特定
 - ✓ 各スペース管理者の特定
 - ✓ 利用状況の簡単なヒアリング
 - ✓ 大まかな移行スケジュール策定
- ✓ 移行ツールの実行環境の構築（AWS）
- ✓ 移行ツールの仕様確認
 - ✓ PoC
 - ✓ 作業手順書の作成
 - ✓ スペース管理者向け説明資料の作成

STEP2：各スペースの移行

※各スペース毎に実施

1. 準備

- I. 移行作業の説明・ヒアリング
- II. 移行対象プロジェクトの決定
- III. 移行可否の判断・日程調整
- IV. 移行利用者向け事前アナウンス
- V. Backlog移行ツールの前準備
- VI. ユーザーマッピング作業

2. 移行本番作業

1. Backlog移行ツールの実行

3. 移行後の作業

03

成果



結果

2023年10月～2024年9月の1年間で

- ・ **スペース3件の統合が完了**

残りの6件

- ・ 3件：保留
- ・ 3件：これから調整を進めていく

統合したスペースと削減できた金額コスト

スペースA

プロジェクト数：35

課題数/1PJ：2,500

ユーザー数：230

プラン：スタンダードクラシック

約15万円/年

スペースB

プロジェクト数：11

課題数/1PJ：730

ユーザー数：100

プラン：プレミアム

約30万円/年

スペースC

プロジェクト数：20

課題数/1PJ：4,500

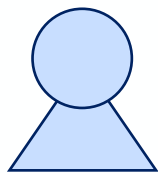
ユーザー数：280

プラン：プレミアム

約30万円/年

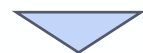
計 約**75万円/年**削減

移行結果（メリット）：ガバナンス・セキュリティが向上

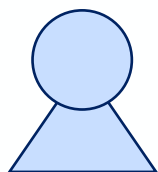


スペース管理者

移行元の契約プラン
「スタンダードクラシック」の
提供終了が予定されており、
プラン移行の作業が必要となった



作業工数削減

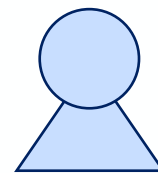


スペース管理者

移行先のプランが、
移行元より上位のプランであるため、
利用できる機能が増えた



利用者の利便性向上



スペース管理者

スペース管理から解放されました。

- ・アカウント管理
- ・プロジェクト管理
- ・許可IP管理
- ・契約更新



作業工数の削減

- ・管理コストの削減
- ・アクセスログの取得も可能に

移行結果（デメリット）：スペースの容量がひっ迫・・・

合計**66**件のプロジェクトを移行した結果、
スペースの容量が**80%**以上に・・・

そのため、容量の棚卸しであったり、
「プロジェクトで利用する容量」のルール導入検討が必要に・・・

04

今後の目標



「プロジェクト管理」 「Backlog」 ナレッジの社内展開

AsIs

- ①800近いプロジェクトがあるが、ナレッジが蓄積されていない…
- ②Backlogを正しく使いこなせているかわからずに困っているユーザーが多い…



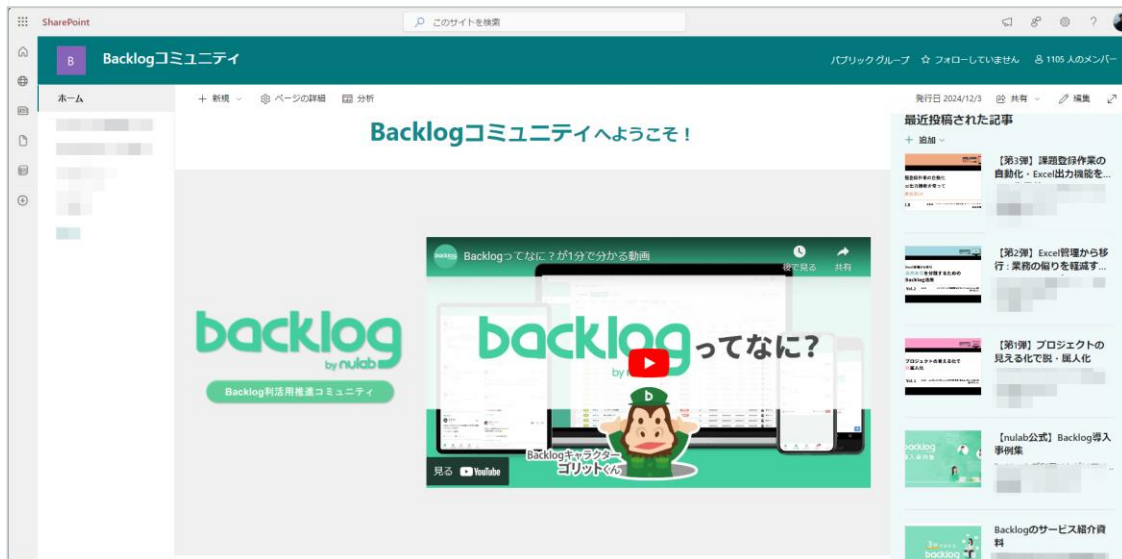
ToBe

- ・社内にナレッジが蓄積、シェアされている
- ・同志が集まる社内コミュニティ
- ・初めてBacklogを導入するチームが、すぐに使いこなせるようになる



Backlogの利活用促進にも注力しています

コミュニティサイト



- 社内のBacklog活用事例インタビュー
- Backlog公式導入事例集
- 公式使い方ガイドへの導線

社内SNS（知恵袋）



- さまざまな問い合わせの受付
- 公式オンラインセミナーの共有
- Backlogブログの新着記事の紹介

Special Thanks!!!

Backlog管理チームのメンバー

川上さん



三國さん



忙しい中での発表資料作成のご協力、
本当にありがとうございました！

ご清聴ありがとうございました